

# 情報技術の匠

PROFESSIONAL

第54回

ネットワークの匠

## 走り続ける。笑顔で。

森本は、モノを組み立てることが好きな少女だった。小さなころから理系志向で、大きくて動くものが好きだった。

「恐竜の骨を見て『すごいなあ』と思ったり、『宇宙ってどうなっているんだろうなあ』って興味を持ったり。本を読んで、博物館へ行って、『これってどうなっているんだろう』と考えることが楽しかったんです」

人とかがかわることが苦手だったわけではないけれど、自分の世界の中で物思いにふけったり、理論を組み立て、そして実際に何かを作ってみることが心地よかった。

しかし森本は、今、ネットワークとコミュニケーションを担当するコン

サルタントとして、前線で多くの人たちとかかわり、困難にぶつかりながらも、それを大いに楽しんでいる。



キャリアのスタートは、外資系企業の無線通信に関する研究開発部門。そのころの森本にとってはまさに、うってつけの仕事だった。そこで約10年間、原理、理論と向き合う仕事を続けてきた。

「論理と構造をベースにシステムの動作を考える。深く、深く取り組んでいくことはもちろん好きでした。でも、10年取り組んできて、そろそろ新しいことをやってみたいと思ったんです。できれば、エンドユー

ザーに近いところで」

培ってきた自分の世界から抜け出して、別の世界へ飛び込む。勇気というよりは、森本にとっては、ごく自然な流れだったのかもしれない。

1998年、日本IBMに入社。配属は首都圏SE部門。ネットワークの設計、構築をお客様と一緒に取り組む、まさに望んでいた通り、現場の最前線だった。

森本が大きな変化を迎えたのと同時に、情報を結び付けるネットワークと、コミュニケーションの分野は、激しく、著しい速さで変化していく時代でもあった。

「インターネットの急速な進化で、技術者も研究者も、そして社会もマインド・チェンジが必要な時期でした。わたしも大変でしたが、それだけにやりがいも大きかったと思います」

特に、最近ではコミュニケーション分野、つまり、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス) やスマートフォンなどを通じてのまったく新しいスタイルの伝達、共有の手段が登場し、当たり前のように世の中で使われている。ビジネスにおいても同様だ。

「山ほど考えなければならぬことがあります。この1つのテーマだけでも人生を懸けて取り組めるもの。ネットワーク分野は長く手掛け



### 森本 祥子 (もりもと さちこ)

日本アイ・ビー・エム株式会社  
グローバル・テクノロジー・サービス事業  
ITS デリバリー  
IT 戦略コンサル、第二コンサルティング  
ICP コンサルティング ITS

#### 【プロフィール】

外資系通信機メーカーの通信システム R&D 部門を経て、1998年、日本IBM 首都圏 SE 部に入社。2000年からはネットワーク サービス事業のテクニカル・サービス、ソリューション&サービスで主にネットワークとコミュニケーションシステムの設計構築を担当。2007年、GTS ITS Solution Center のマネジャー、2008年、ITSSC Integrated Communication Services などを経て現職。ネットワークとコミュニケーションを主軸として、IT インフラのコンサルティング・サービスを担当している。

てきましたが、コミュニケーションについてはまだまだ学ばなければならないことはたくさんあります」

しかし、「できるが増えることは歓迎」と森本は笑顔を見せる。

研究・開発部門から現場に自らの舞台を変えたのも、追いかけて続けられるものがそこにあるから。

そう、森本にはへこたれない、3つの強みがある。1つは、「とりあえずやってみる精神」、2つ目は「マイペースでの持久力」、そして3つ目に「興味対象のバランス」。

とりあえず、ということ聞かえは悪いが、言い換えればまず、手掛けて始めてみようという気持ち。何かにつづいたらそこで解決法を考えればいい。アイデアもアドバイスも、社内にはたくさんある。何かできそうと思えるのに動く前にあきらめるほど、もったいないことはない、ということだろう。

「いいアイデアや答えが出ないと、自分に対して『バカだな』と言っちゃうこともあります(笑)。でも、おいしいものを食べて、寝る。これでスッキリして、また考えればいい」

動いていけば、やれることは自然に増えていく。追いかけて続けるものが生まれてくる。それが森本の実感。



2番目は、「マイペースでの持久力」。

仕事とは離れるが、森本の最近の趣味は自転車。ツール・ド・フランスなどでおなじみのロード・レース・カテゴリーだ。休日には半日、1日かけて、箱根や三浦半島辺りまで愛車を仲間たちと走らせる。

「スピード自体は速くありません。景色とおいしいものを楽しみしながらゆっくり走るのが好きなんです。その分、自分のペースであればひたすら走り続けられる気力と体力だけはあるんですよ(笑)」

仕事では、進化し続けるネットワークとコミュニケーションの世界の中でお客様と一緒に走り続ける毎日。だが目先の結果だけにとらわれず、理論を照らしながらじっくりと、お客様の要望と技術を結び付け歩いていくことが必要だ。あきらめない、投げ出さない。それには楽しむことを忘れない、しつこさも力なのだ。

3番目の「興味対象のバランス」も、趣味を例にとると分かりやすいだろうか。現在、自転車と並行して楽しんでいるのが、書道だ。

「1枚1枚、集中して取り組んでいるとほかのことを忘れてしまいます」

ということだが、解放的で爽快感もある自転車と、集中して美しい作品を生み出す匠の世界の書道では、随分と両極端な趣味ではないか。

しかし、これも森本らしさ。大学時代は理数系の研究をしながら、航空部に所属してグライダーを操縦していたという経歴の持ち主でもある。

キャリアを振り返ってみれば、研究者として原理や理論に向き合う自分がいて、コンサルタントとして明るい笑顔で積極的にお客様に向き合う自分もいる。

「堂々とお客様と話しているように見えて、実はスゴイ小心者。今でも資料を提出する時は恐る恐る(笑)」

ある意味、この2面性が人生を

楽しくし、仕事を楽しめる才能の源なのかもしれない。裏と表ではなく、どちらも表の顔。いつだって、何にだって、向かい合う。



「最近、朝日を見るのが好きなんです。夏なら6時前に起きて朝日を見る。静かに一日の始まりを見ると、一日がリセットされて前向きに元気になります」

エンジニア時代、研究・開発部門では夜型の生活が当たり前の環境に身を置いていた。現場に出るようになり、そしてマネジャー時代になると、朝型のスタイルを求められた。今はすっかりそのスタイルが身に付いている。悩むことはない。チャンスももらって「とりあえず始めた」ことは、自分にとって成長と幸せを呼び込んでくれる。

「少し長めの休みが取れたら、自転車で日本海を見に行きたいです。ゆっくり、おいしいものを食べて、きれいな風景を見ながら時間をかけて」

先輩の女性社員を見て感じることもあると森本は言う。

「皆さん、本当に仕事に一生懸命に取り組んでいます。それも皆さん生き生きと。わたしももっと質の高い仕事をしなければいけないと思います」

チャンスに手を掛け続ける先には、そして、壁やハードルや思い悩む日々の先にはきっと…。

あこがれの先輩社員たちのように生き生きと、楽しんで働いている自分の姿がある。走り続ける。じっくり、楽しく。